

平成31年度 東京都立町田工業高等学校 経営報告 校長 山之口 和宏

自己評価基準：【A】十分に達成できた【B】概ね達成できた【C】あまり達成できなかった【D】達成できなかった

令和元年度 東京都立町田工業高等学校 学校経営報告	
今年度の教育活動への取組	自己評価
<p>【学習指導】 学力向上推進委員会を中心として、全教科で「充実したわかる授業」を展開し、生徒のやる気を引き出す。 ア 学力スタンダード、技能スタンダードの実施を踏まえて、求める学力や技術・技能の到達目標を明確にするとともに、ALを積極的に取り入れ、生徒の学力の確実な向上を図る。その際、STEAM教育や「対話力、協調性、分析的思考、セルフマネジメント、好奇心、動機づけ、リーダー性・責任感」の7項目についての職業スキル育成（ワーク・プレイス・ラーニング、以下WPLと呼ぶ）を意図的に授業に取り入れ、実施する。 イ 授業評価・到達度評価など適切な評価を計画的に行い、生徒のつまづきを明らかにして、充実したわかる授業を展開する。また、若手の研究授業や相互授業観察等を機会に授業研究（ALの事例研究等）を推進する。 ウ 生徒の実態を踏まえた長期休業日中の補習を実施する。 エ 実効性があり成果を得ている平日の補習・講習を学校として集約し、共有化と組織化を行う。 （上記、ウ、エともに資格・検定取得に向けた内容も含む） オ 課題（宿題や予復習を含む）や小テストの実施等の工夫により、授業時間外の学習を促す。 カ アからオの方策と共に「学力向上研究校（校内寺子屋）」「教育産業提供のコンテンツ」や「教科・系列が連携した指導体制」に取り組むことで学力向上を図り、生徒の意欲を高める。 キ 安全・安心な学習環境・指導体制を維持・向上させるため、施設設備及び指導体制充実のため活動を活性化する。 ク 拠点校実習、工場見学等について検討を進め、学習活動の更なる有効化を図る。 ケ 教科「人間と社会」を生活指導とも関連付けながら計画的に実施する。</p> <p>【生活指導・保健指導】 学習指導や進路指導での生活指導の有効性を全員が意識し、本校生徒に「身に付けさせる規律・規範」を明示して、「いつでも」「どこでも」「誰でも」の指導を徹底する。 ア 身だしなみ（頭髪・服装等）や言葉遣いに関する指導や生徒から自発的に挨拶が出る指導励行を継続して実施する。 イ 遅刻の実態把握とその是正指導に全校体制で取り組むことで遅刻数を減少させ、生徒の時間厳守の意識の醸成を図る。 ウ 健康的な生活について生徒に考えさせる指導を継続するとともに、家庭と連携して解決を図る。 エ 教職員がそれぞれの指導方法を工夫しながら、学校生活のどの場面においても、学校として一致した「ぶれない生活指導」を行う。特にチャイム着席をはじめとする授業規律の指導について徹底を図る。また、低学力の原因となる生活習慣（過度のアルバイト、ゲーム・SNS等の利用等）について、組織的な調査により実態を把握し、個々に応じた効果的な指導を行って改</p>	<p>【学習指導】 ア 学力スタンダード及び年間授業計画を公開し、また技能スタンダードを策定し実習等の到達段階・目標を明確にした。ALの取組が全教科にかなり浸透し、ICT利用と相まって充実してきた。WPLへの取組にはバラつきが残った。 【B】 イ 授業評価等は計画的に実施できた。若手の研究授業を機会に相互授業観察する教員は増えたが、十分には浸透しておらず、ALの事例研究はほとんど行われなかった。ALに取り組んだ教科・教員の授業の充実度はますます高まってきた。 ウ 夏季休業中に9講座で延べ82日、248時間の補習を行った【B】 エ 長期休業日以外に計画的に実施した補習・講習は延べ267日、284時間で、概ね例年並みの日数、参加人数を維持できた。教科担当教員主導の定期考査前補習が主で効果を上げ、資格取得の指導、工業実習科目の補習の充実も図られた。【B】 オ 実習のレポート作成への取組は高いレベルで維持できている。検定合格を目指した放課後学習の取組で学習習慣が身に付いた生徒が出た。【B】 カ 学力向上研究校（校内寺子屋）は数学のみから国英を加えて継続的な運営で実施し、学習習慣定着を示す生徒が出て、学力向上につながった。「町工塾」はWeb配信教材での実施に向けた環境（教材業者との契約、タブレット端末の整備）を進めることができた。【B】 キ、ク、ク 学年と教務が連携し、計画的に実施できた。キの有効化については、拠点校の実態に即した形で継続して実施する方向性が出された。【B】</p> <p>【生活指導・保健指導】 ア 担任によるSHR等日々の指導に加えて、学年集会で全体的指導を行っている。生徒指導部による始業式、定期考査最終日の頭髪・服装検査を柱に学年と連携した指導、生徒指導部他による毎朝のあいさつ・校門指導は年間を通して継続実施している。生徒の指導内容への理解が深まるように指導を見直しながら教職員全員で継続した指導にあたる。【B】 イ 学年と生徒指導部で連携を図り、改善の見られた生徒が出た一方で、一向に改善の見られない生徒が多く、家庭に協力を依頼して個別面接等の継続的指導を行ったが、結果として遅刻数が前年度比で3%増加してしまった。HR担任、学年、生徒指導部と段階的・組織的な指導を更に進める。【C】 ウ、エ 専門教科の実習を代表に、専門教科・普通教科を問わず身だしなみを整えることやあいさつの励行の意味についての生徒の理解が深まるように、教員が授業中に声をかけている。また儀式的行事や校外行事の事前指導、学年・全校集会など機会を捉えて指導を継続している。生徒指導部、進路指導部からの案内、学級通信、メールサービスによる保護者への案内など、家庭との連携の一助とする取組を行っている。結果、落ち着いた学習環境を維持している。生徒状況の維持に向けた緊張感を共有し、アルバイトの実態解明など、更なる改善を目指す。【B】 オ 特別支援教育委員会を年10回開催し、職員の意識向上が図れた。スクールカウンセラー（SC）による全員面接と個別事例への対応、保健日よりや</p>

善を図り、もって学力向上・転退学防止につなげる。

オ スクールカウンセラー配置を生徒・保護者に周知するとともに、生徒指導部、特別支援教育委員会が連携して、特別支援教育の視点をふまえて、それぞれの生徒に有効な指導方法で対応する。また、特別支援教育コーディネーター等、人材の育成を図る。

カ 全教職員が一致していじめを許さない姿勢を見せ、係る事態の早期発見を徹底していじめ撲滅を果たす。

キ 宿泊防災体験活動、避難訓練などの防災教育を充実させて、生徒の自助・共助の意識と能力を育て高める。

ク 総合情報科設置校として、これまでの「情報教育推進校事業」としての取組に基づき、生徒の情報モラル、情報活用能力の好ましい向上に資するとともに、地域の学校への波及を促す。

ケ 教科指導や市選挙管理委員会と連携した体験活動により主権者教育を計画的に進める。

コ 生徒指導部・学校いじめ対策委員会・特別支援教育委員会を中心として、学級担任・教科担任・部活動顧問等、全教職員及び保護者が連携し、生徒個々のわずかな変化も見逃すことなく早期に対応し、生徒に対して、自らの人生を充実させ歩み続ける指導を推進する。

サ 上記ア～コの他にも、あらゆる指導の場面を通じて道徳観を育成する教育を実践する。

【進路指導】

「生徒の希望進路の実現」を果たす。

ア 学年集会、面談週間、個人面談などを活用し、最後まであきらめない進路指導を継続する。

イ 担任・副担任・教科担任・部活動顧問などが生徒情報を共有し共通理解のもとに、あらゆる場面で生徒を励ます指導を行う。

ウ 教員による企業訪問等によりニーズを把握し、進路講話、進路ガイダンスなどを充実させ、入学時から3年間の見通しを持った指導により、社会人として望ましい勤労観・職業観を育む。

エ 企業講話、ものづくり講話などでの外部人材の活用やインターンシップの実施を発展・拡充し、生徒の職業に対する理解を深める機会をより充実して社会的・職業的自立意識を醸成し、将来の職業選択の一助とする。

オ 対話力、協調性、分析的思考、セワ・マホ・マヒト、好奇心、動機づけ、リーダー性・責任感の7項目について、教科横断的にWPLを実施する。

カ 町工グローバルITエンジニア育成プログラム（以下、町工GITE-Pg）を着実に実行し、参加生徒のグローバル感覚の育成を図るとともに、その効果を全生徒が共有できるようにする。また、次年度以降の実施に向け、改善点の検討や計画策定を行う。

【特別活動】

生徒が諸活動に主体的・積極的に取り組む中で、帰属意識や他を思いやる心を育て、体力・気力を養い、困難な状況にあっても「くじけぬ心」を育てる。

ア 新入生に部活動参加を奨励するとともに、2年生以降の部活動継続及び加入を促し、加入率を向上させる。また、部顧問等、指導者の積極的な指導で活動の定常化を図るとともに、生徒による自主的な運営を促し、活性化を図る。

イ 自主的、自律的な学校づくりに向けて、生徒会の自立的活動を推進し活性化を図る。

SC通信の定期的発行により、情報発信を行っている。【B】

カ アンケート結果に基づいた面接や教員からの情報に基づき、生徒の実態をいち早く正確に把握し、「いじめ0（ゼロ）」を継続できた。【A】

キ 避難訓練を年4回実施した。また宿泊防災体験活動では、第1学年生徒全員が上級救命講習を受講し、在校生全員が受講者となった。生徒会執行部が参加を予定していた町田市総合防災訓練は急遽中止となったが、消防署花壇の装飾への協力など、地域防災への協力できた。セーフティ教室、交通安全教室、防災講話など警察、消防、町田市など関係機関の協力を得て実施している。【A】

ク 一昨年度作成した情報モラルテキストに基づいた活動に続き、中学校1校でテキストのPDFデータを活用した授業へ協力することができ、モラル啓発拠点としての活動を継続できた。【B】

ケ 町田市選挙管理委員会の全面的な協力により、実践的な主権者教育を実施できた。今後も継続的・計画的に実施する。【A】

コ 各部・委員会を機能させ、また、SOSの出し方に関するDVD等を活用して指導を行い、命の大切さを醸成できた。【A】

サ 年間を通じ、これまでとは性質の異なる指導事案が続いたため、それを契機に教員の道徳観育成の意識が高まるとともに、生徒にも道徳心の大切さが機会を積極的に持つことができた。【B】

【進路指導】

ア、イ、ウ 第1学年では各系列の学習・進路ガイダンスを行い、系列希望調査を複数回実施して、系列を選択させた。

第2学年では、進路希望先別の進路ガイダンス、卒業生の進学・就職体験談を聞く会、クラス(系列)ごとの拠点校実習と工業見学を実施した。

第3学年では学年当初のガイダンス、外部施設を利用した模擬面接などと共に、個別指導を学年と進路指導部が連携を取りながら行った。

教員による企業訪問から生徒に求めるものの把握ができて、進路指導の取組内容の改善に生かすことができた。【B】

エ 第2学年で7月に26企業、53名(昨年度比54%減、学年生徒の35%)での実施となった。昨年度の反省を受けて、意識の高い生徒の参加に限定し、事前指導、当日、事後指導を経て、生徒に職業観や勤労観に好ましい変化、勤労意欲の向上が見られた。受け入れ企業からの生徒の評も高く、今後ともキャリア育成方法として指導体制を整え、更なる協力企業開拓、生徒の参加を目指す。【A】

オ 部分的であるが、実施が見られた。WPLの更なる浸透を図り、全教員による意識的な実施につなげる。【B】

カ 町工グローバルITエンジニア育成プログラムを計画的・継続的に実施した。海外スタディーツアーはJICA等の協力により、成功裏に終わることができた。また、海外学校間交流推進校としてハノイ市内の高校との直接的な生徒間交流の継続に加え、ネットワーク経由での交流も実現した。これを機に姉妹校提携を確実なものとし、内容の充実させて継続的な活動を行い、生徒のグローバル感覚育成に資する。【A】

【特別活動】

ア 新入生に全員加入を勧めて2年生で再加入を促し加入率は維持した(72%)が目標(75%)までの向上には至らなかった。次年度の加入率アップも含め、各部の活動の活性化をいっそう推進する。【B】

イ 生徒会執行部は新入生リレーション、生徒総会、体育祭・文化祭の企画・運営等に積極的な姿勢を示し、町田市総合防災訓練(中止となったが、準備は完了していた)や自治会との連携でも地域防災活動に尽力した。また、整備委員会、保健委員会、図書委員会などの活動が堅実に活動している。【B】

ウ 全教職員(外部人材を含む)への周知及び全生徒(OB等を含む)への指導を徹底により、体罰は0(ゼロ)を達成した。【B】

エ 体育祭、文化祭とも、生徒の実行委員と教員との連携が密に図られ、また、

<p>ウ 部活動等の特別活動に限らず、また教員からのものに限らず、体罰及び不適切な指導が行われることのないように、全教職員（外部人材を含む）への周知及び全生徒（OB等を含む）への指導を徹底するとともに、発生初期での対応が可能な体制づくりの強化を図る。</p> <p>エ 文化祭や体育祭などの全校で取り組む学校行事について、生徒会及び各行事の実行委員会等と担当教員とのコミュニケーションを活性化し、意見を集約・精選して学校全体の取り組みとしての一層の充実を図る。</p> <p>オ 読書活動を推進する読書会などの取組を計画・実施する。</p> <p>カ 「世界ともだちプロジェクト」を含めたオリンピック・パラリンピック教育を特別活動に限らず教科指導までを含めた広い視点で捉え実施する。特に東京 2020 大会以降のレガシー構築を見据えた取組等を実施する。</p> <p>【募集・広報活動】 入学者選抜の応募倍率の向上を図る。</p> <p>ア 根気強い学校PR活動を継続しながら、中学校（生徒・保護者、教員）への一層の働きかけを工夫する。</p> <p>イ 学習活動や学校行事、部活動や生徒会活動等、生徒の活動の様子を積極的に情報発信し、本校の良さを理解してもらう。特に大きな改革内容や魅力的な事業の計画等については、全都的に徹底して周知する。</p> <p>【学校経営・組織体制】 各種会議を充実して情報共有を進め、有効な改善策立案と実施を行う。</p> <p>ア あらゆる機会を捉えて服務規律に関する情報の伝達等を行い、管理監督層のリーダーシップと教員間の相互作用によって高いコンプライアンス（倫理観と規範意識等）を持った教職員集団となる。</p> <p>イ 常に企画調整会議での学校経営計画の理解浸透を図りながら各分掌・学年の意見聴取の双方向性を高め、学校運営の進捗を適正に管理するとともに、適宜必要な方策を検討し実施する。</p> <p>ウ 主幹会議を機能させ、系列の改編等を含めた今後の学校の在り方について検討し、具体的なグランドデザインを策定する。</p> <p>エ 「都立高校改革推進計画・新実施計画（第二次）」に基づき、企業や上級学校との連携によるIT人材育成のためのプログラムの具体的なプランの作成を行うため、プロジェクトチームを編成し、計画的・継続的な検討を進める。</p> <p>オ 実習に関連する施設・設備の維持・管理を促進する。特にメインコントロール室のサーバーについては、教育系と行政系の関係を密に図って適切に対応する。</p> <p>カ 働き方改革プランに基づき、ライフ・ワーク・バランスの改善に向けた具体的な行動に取り組む。</p>	<p>学校全体として組織的な活動が見られて内容が充実し、内外からも高い評価が得られた。今年度の反省点を活かして、更に内容や運営の充実を図ることが求められる。【B】</p> <p>オ 毎週の図書館での読書会の実施など地道に着実な活動を継続している。また、教科（特に国語科）による指導の充実により、不読率の低減が図られている。【B】</p> <p>カ プロジェクトについて、生徒会執行部を中心に千羽鶴で作る国旗（オマーン）の作成・提供に取り組んだ。また、自転車競技（タンデム）のパラリンピックメダリストで、トライアスロンでパラリンピックを目指す地元出身のアスリートを招聘した講演会を実施し、生徒の意識がたいへん高まった。レガシー構築を見据え、オリンピック・パラリンピック教育の更なる取組が求められる。【B】</p> <p>【募集・広報活動】</p> <p>ア 町田市内中学校体験授業（7月）、NPO主催のものづくりチャレンジ大作戦 in 町田へ新規で参加（教員6、生徒4）（8月）ものづくり体験教室（11月）、【A】</p> <p>イ わくわくどきどき夏休みワークショップ（7月）、町田市少年少女発明クラブ（ペットボトルロケット大会（7月）、コマまわし大会（2月）、ものづくりコンテストの補助）【A】</p> <p>7月のインターンシップ期間に教員が巡回訪問して26社に訪問して状況把握を行った。企業が求める学力観が把握でき、コミュニケーション能力が重要であることが確認できた。【B】</p> <p>昨年度から導入したCMSシステムに加え、都教委からの強い奨めを受けてリニューアル版を構築して、双方での大々的なPR活動を考えていたが、リニューアル版の運営（業者及び都教委）が滞り、また更新可の項目制限や更新方法の煩雑さ等で、最重点時期での情報発信の機を失い、教職員の意欲にも大きく影響した。これらの点の改善が急務の課題である。【B】</p> <p>【学校経営・組織体制】</p> <p>ア 定期的な校内研修等で意識の向上を図っている。町工グローバルIT人材育成プログラムの継続的実施やより高度な資格・検定取得に向けた方針の浸透が図られ、成果を残すとともに、教員の意識の高まりが感じられた。【B】</p> <p>イ 企画調整会議等の会議、管理運規程にある委員会組織はその目的を果たしている。特に、グランドデザイン策定に向け、複数回の主幹会議での活発な協議により、その内容が充実したものになったとともに、全教職員への意識づけにつながった。教科会、系列会議の更なる活性化を進め、学校のさらなる組織的計画的な指導・育成の体制を充実させる。【B】</p> <p>ウ ライフ・ワーク・バランスに対する意識の高まりとともに、業務の効率化を図る意識が高まり、前年に比べて全体として勤務時間の縮減が見られたが、一部の教員の改善が図られなかった。【B】</p>
---	--

今年度の重点目標への取組	自己評価
<p>【学習指導】 充実したわかる授業づくり ア 実施に適した学習内容を精選した上で、教材に工夫を加えたALを実施する。 イ 組織的に授業評価・到達度評価など適切な評価を行って授業改善を進め、学力スタンダード、技能スタンダードの到達目標を達成する。 ウ 学力スタンダード、技能スタンダード等、各科・系列の学習到達目標達成のため、教科会・系列会議・総合情報科会を計画的に実施して教科マネジメントを機能させる。 エ 基礎力診断テストの計画実施による効果検証を徹底し、分析結果に基づく指導を行う。 オ 生徒の実態に応じた授業補習・補講、検定対策等（「校内寺子屋」等を含む）を教科・系列等で組織的かつ具体的に計画し、実施する。</p> <p>[数値目標] a. 12月までに4回以上、ワークシート、ICT等を活用したAL授業を実施 b. 全科目において生徒による授業評価を1・2学期末に実施し、①わかり易さ、②内容理解や学力定着、興味・関心の喚起等の工夫への取組、③総合的な授業満足度の3つの項目すべてで、いずれの学期でも全体の平均で肯定的意見75%以上 c. 基礎力診断テスト結果分析研修を年2回実施、内、1回は悉皆参加 d. 教科会を月2回以上実施し、議事録の作成・提出・閲覧を徹底 e. 教員相互授業参観（始業から終業まで観察し、授業観察メモを作成・提供する）年3回以上実施の徹底 f. 補習等の計画書及び実施報告書の提出100%</p> <p>【生活指導・保健指導】 「いつでも、どこでも、誰でも」指導できる体制とぶれない指導 ア 「始業チャイムとともに授業開始」など『身に付けさせる規律・規範』に関する全体計画』と生活指導の年間計画を策定して、教職員の一致した、厳しくも温かい指導として実践する。 イ 生徒指導部、特別支援教育委員会、スクールカウンセラーによる校内研修を計画的に実施して、発達障害などに関する理解を深め、当該生徒への組織的な支援体制を構築する。 ウ 年3回のアンケート時以外もきめ細かな声掛けや観察・面接等を行い、いじめを起こさない環境づくりを徹底する。 エ 遅刻指導に全校で取り組み、遅刻者数の把握（朝のショートホームルームでの遅刻実態把握）と具体的に適切な指導を実施する。 オ 生徒の健康的な生活及び体力の向上を目指し、教科「保健体育」を核とした指導を展開・実施する。</p> <p>[数値目標] a. 転・退学生徒の減少 対在籍者比で退学者2%以下、転学者と退学者の合計で4%以下 b. 特別指導件数の減少 前年度比で半減 c. 「いじめ0（ゼロ）」の継続 c. 月ごとの集計において、遅刻者数の減少を図る。 前年度比で半減 d. 全教員悉皆による特別支援教育に関連する研修を年1</p>	<p>【学習指導】 ア、イ 生徒による授業評価、教員相互の授業参観などに取り組み、また、個人的にALを導入し、授業力を高めながら教科の組織的指導力向上を図っている。授業評価はほぼ全教員が実施している。教科会で学力スタンダード到達目標を設定し指導に当たり、第一学年学力調査時点で約90%の生徒が到達目標を達成した。技能スタンダードについては、全学年・系列で共通設定したレポート提出状況はほぼ全員が基本レベルを達成し、各科目・実習についても基礎・基本段階は達成している。教科マネジメントをさらに進めながら、組織的な指導を意識して学習指導にあたり、生徒の学力向上と定着を図る。</p> <p>【B】 ウ 定期的開催はできたが、研修会は実施できていない。【B】 エ 結果に基づく研修を年2回実施し、指導への有効性を確認できた。【B】 オ 校内寺子屋事業をその趣旨に則って年間を通じて実施したが、講師との連携に課題が出た。次年度はWeb配信学習で生徒の学力が向上を図る。【B】</p> <p>[数値目標] ・AL授業の回数を達成できた教員が過半数を超えた。【B】 ・全科目の授業評価で、1・2学期の肯定的意見の平均が①82%、②77%、③87%と、いずれも目標を達成した。さらなる向上を目指す。【B】 ・例月と規定時期に実施し、生徒情報の共有、議事録の作成・報告が進んだ。系列会議の議事録作成・報告を更に推進する必要がある。【B】 ・観察メモの提出による徹底を図ったが、年2回以上を行ったものは25%程度と昨年同様であった。工夫を加え、次年度での徹底を図る。【C】 ・延べ349日（昨320）、534時間（昨765）の補習・講習が計画・実施され、生徒の学力向上、資格取得に寄与した。【B】</p> <p>【生活指導・保健指導】 ア 全員体制でオンチャイム授業、授業規律の確保に取り組み、年間を通して着実に定着している。教員の一致した指導を徹底・継続して良好な学習環境を維持し、学力向上の基盤とする。【B】 イ 特別支援教育委員会を主導とした生徒情報交換及び校内研修が実施され、支援・配慮を要する生徒及び保護者に対して丁寧かつ粘り強い指導を行い、個に応じた就学支援を完遂した。【B】 ウ 年3回のアンケート完全実施、対象生徒との面接の徹底により、いじめ発生防止の徹底が図られた。【A】 エ 担任からの毎日の指導、保護者へのこまめな連絡が行われ、学年・生徒指導部による段階的な指導等、組織的に統一した指導も実施し、改善が見られた生徒がでたが、全体の遅刻回数改善は見られなかった。【C】 オ 統一体力テストにおいては、引き続き全体としてわずかながらだが向上傾向が見られている。外部施設を利用した本格的なマラソン大会実施により、生徒の持久力、精神力が鍛錬され、目標に向かう積極性、諦めない心が育成されている。【A】</p> <p>[数値目標] ・転退学者は10.5%（50名で14名増）、退学者は4.4%（21名で2名減）となった{30年度は転退学者7.2%（36名）}。【C】 ・特別指導件数は16件となった{前年度9件}。 ・いじめ案件はなかった（昨3件）。アンケートに基づく面接の徹底が図られており、大きな問題に発展していない。いじめや悪質なはずらの生徒調査を丁寧に行い、生活指導部・学年や保護者との連携の下に対応を取ることができている。【B】</p>

<p>回開催</p> <p>【進路指導】 生徒の希望進路の実現 ア 最後まであきらめさせない励ましの指導を全校的に継続する。 イ 教員による企業訪問とインターンシップを継続実施する。 ウ 資格や検定取得への取組を充実させて、合格率向上や新たな分野への受験者の拡大へ繋げる。 エ STEAM 教育や WPL を取り入れた授業を教科横断に展開し、職業スキルの醸成を図る。 オ 町工GITE-Pgの新規参加者を開拓し、事業を継続し、効果を学校全体に波及させる。</p> <p>[数値目標] a.進路決定率100%の継続を実現 b.企業数40社以上、参加生徒数80名以上でのインターンシップ実施 c.合格率60%を目標値として、年度内に全生徒が1つ以上資格や検定取得に合格(約500以上) d.町工グローバルITエンジニア育成プログラム新規参加者20名以上</p> <p>【特別活動】 諸活動の活性化を図り生徒の居場所の確保に繋げる ア 部活動の加入奨励と活動継続への指導を行う。 イ 部活動や生徒会活動、防災活動支援隊等を地域への貢献活動に積極的に取り組ませて自己有用感を醸成し、豊かな人間性を育成する。 ウ 図書委員会による読書会や教科の図書館利用等を推進し、生徒の読書を習慣化する。 エ オリンピック・パラリンピック教育をあらゆる場面で実施し、2020大会の機運を高める。</p> <p>[数値目標] a.部活動加入率78%以上 b.学校評価アンケートでの学校生活の満足度85%以上、学校諸行事への満足度及び学校生活の充実における部活動等の役立ち度70%以上 c.地域等への生徒による防災及びボランティア活動等20件以上 d.生徒の不読率25%以下 e.年間に2回以上、オリンピック・パラリンピックに関連する題材を取り入れた授業を全教員が行う。</p>	<p>・大幅増加となった昨年度を更に上回る結果(5034回)となった。抜本的な時間遵守の指導体制及び2・3学期の遅刻者数を減らす対策により、半減を目指す。 (31年度4875回 30年度4172回 29年度2794回 28年度2747回 27年度3816回)。【B】</p> <p>【進路指導】 ア 進路指導部と第3学年・各系列による生徒の個別指導体制などの総合的取組がなされている。進路指導部が主導し、各学年・系列、各教科とで役割分担をしながら連携改善をすることで、指導の充実が図られている。【B】 イ 夏季休業中に26名の教員が26社(30年度は43名の教員が58社)の企業訪問を行い、広報・情報収集等に当たった。第2学年で7月に26企業、53名(30年度は41企業、115名)の意識の高い生徒がインターンシップを実施し、受け入れにに応じていただいた企業26社に教員が企業訪問を行った。生徒意識の変容など意義ある結果を得ている。実施時期の調整、受け入れ先企業の確保などを含む校内指導体制を定着させて、生徒のリテラシー向上に繋げていく。【B】 エ 部分的な取り組みは見られた。より意図的な取り組みを図る。【B】 オ 昨年度の29名から3名減となったが、周知され定着が見られた。【B】</p> <p>[数値目標] ・進路状況は、就職者48.7%(74名)、大学・短大進学者7.2%(11名)、専門学校進学者32.2%(49名)、その他11.8%(18名)、全体の決定率は88.1%(152名中、その他18名)であり、未決定者は0となった。就職者の学校幹旋内定は100%であった。【A】 ・資格・検定関連の指導講座を開講して指導した結果、延べ合格者は423名で、目標の500は達成できなかったが、30年度の417を上回った。ジュニアマイスターは出ず、国家資格の電気工事士も二種で15名(昨年比5名減)、一種で1名(昨年度比2名減)、ITパスポート7名(昨年度比3名減)等、低迷したものもある一方で、難関の国家資格である情報セキュリティに新規で3名、高度な企業系認定資格としてMicrosoft Office Specialist(MOS)31名(昨年度比11名増)、工事担任者DD3種に3名、Cisco Networking Academy RSI修了者30名(昨年度と同数)、CCNA前段階認定40名(昨年度比23名増)など、着実な進展も見られた。 全体の実験者数が低迷傾向にあるので、工業科授業の延長上にある成果として生徒の自己肯定感を高めるためにも、意図的・計画的に受験を勧めて、合格率を高める指導が今後一層の課題である。【B】</p> <p>【特別活動】 ア 加入率は横ばい(30年度72%)で、活動状況に大きな低下は見られなかった。マシクラフト部、フラダンス部、鉄道部、ワンダーフォーゲル部などが引き続き特色ある活動を継続し、硬式野球部もさらに活動が活発になった。また、同好会から昇格したラグビー部の活性化が顕著で、フラダンス部、吹奏楽部、演劇部、ギター部等が合同で発表会や外部施設訪問等、地域貢献も継続している。加入率の更なる向上と活動状況の両面のアップを図る。【B】 イ 生徒会役員による地域防災活動への参加を計画し準備も行ったが、開催が中止になった。【B】 ウ 図書委員会による定例読書会が通年で計画的に実施され、生徒の主体的活動につながった。【B】</p> <p>[数値目標] ・学校生活の満足度は生徒75%(昨71)、保護者82%(昨と同)であった。行事への満足度は生徒53%(昨59)、保護者85%(昨82)、教員66%(昨と同)であった。【B】 ・オリンピック・パラリンピックに関連する題材を取り入れた授業は、昨年度の数名からはほぼ倍増したが、全員には至らなかった。【B】</p>
---	--

【募集・広報活動】

本校を理解した生徒の獲得

ア 総合情報科の特色を生かした5系列のものづくり教室や1日体験入学を充実させるとともに、広報を徹底して多くの中学生に参加してもらい、工業・情報教育に関心のある応募者を増やす。

イ 小・中学生向けのものづくり教室、部活動体験などの企画・実施を充実させて、小・中学校との連携を推進する。特に、中学生の教員に対する研修等を企画・実施し、中学生へ本校の良さを伝えてもらう。

ウ 学校内外での説明会に積極的に取り組み、町田地区へのPRの再徹底、町田地区以外への周知徹底を図る。

エ 教員による企業訪問の機会に学校広報と情報収集を行い、学習指導や募集対策に生かす。

オ 全面的なリニューアルを含め、学校ホームページ内容の充実及び適時かつ頻繁な更新を推進し、本校の良さについてより積極的に情報発信し、真に本校を目指す生徒の募集に資する。併せて、それ以外のあらゆる媒体を活用し、PRを徹底する。

[数値目標]

- a. 入学者選抜応募倍率を、推薦に基づく選抜2.0倍、学力検査に基づく選抜1.2倍
- b. 「教員の訪問活動者」数の中学校100校以上、塾50件以上、企業40件以上の達成
- c. 学校ホームページの全教職員による更新 年間800回以上

【学校経営・組織体制】

PDCAマネジメントサイクルの実動化及びライフ・ワーク・バランスを改善

ア 体罰根絶や服務事故防止に関する校内研修を始めとする事故防止のための取組を確実に進行。

イ 教育系職員と行政系職員の関係を強化し、効率的で有効な学校運営を推進する。

ウ 学習指導・部活動指導等の質の維持・向上を図りつつ業務の効率化を進め、ライフ・ワーク・バランスを改善する。

[数値目標]

- a. 組織として事故0環境を構築して事故「0」を継続
- b. 教育系・行政系合わせて、電子決定方式の70%以上達成
- c. 昨年度の教員による残業平均値に対して、本年度教員によるそれを5%削減
- d. 『学校における働き方改革推進プラン』の「当面の目標」、「都立学校における取組方針」の達成、各自が定時退庁日を設定し、遵守、夏休の完全取得、年休（時間単位を含む）の積極的取得

【募集・広報活動】

・本校での学校見学会4回・説明会10回、授業体験会2回、合同説明会6回（都合同2、多摩南部1、NPO3）、部活動体験（2部活）各1回を行った。

【B】

・町田市内中学校の技術の先生方への研修会是要請がなく、未実施。【C】

・今年度新規に導入されたリニューアル版のホームページが運営主体側の問題で軌道に乗らず、効果的な広報のチャンスを失った。【C】

・昨年度刷新した学校案内の内容を更に充実（特に新系列や企業連携関係）し、加えて別刷りのリーフレット、学校案内の小型版の町田市内中学校全3年生への送付等で、本校の良さがこれまでより格段に伝わるようにした。【A】

[数値目標]

- ・入学者選抜応募倍率は推薦に基づく選抜81名、1.16倍（40%枠）、（30年度 66名、1.27倍（30%枠））、学力検査に基づく選抜 94名。0.90倍（60%枠）（30年度 117名、0.95倍（70%枠））となり、二次募集を行った結果、不合格者を出さず定員に達し、三次募集の実施はなかった。【C】
- ・教員による中学校訪問80校（昨年度比10校増）となったが、塾訪問は行えなかった。【B】
- ・学校ホームページ更新は、リニューアル版の構築が遅れ、そちらでの更新を計画していたが、更新項目の制限や更新手続きの煩雑化などで、昨年度比で6割強の減となった。新旧ホームページの運用主体の明確化と更新のルーティン化が大きな課題である。【C】。

【学校経営・組織体制】

ア、イ 事故防止には全員が研修等で意識を高め取組んでいる。経営企画室を中心に校内連携が進み、自律経営予算施行及び請求、工業関連設備の充実が成果が上がっている。またグローバル人材育成や広報活動の充実が顕著であった。この動きを更に推進する。【A】

[数値目標]

- ・学校として、服務事故防止等に向けて定期校内研修2回、ほぼすべての企画調整会議・職員会議で注意喚起等に取り組んだが、過去のデータの誤りにより、誤記調査書の発行が発生した。体罰等の事故は0を達成した。より一層の綱紀粛正を徹底する。【C】
- ・経営企画室を中心に電子方式の徹底を図った結果、教育系・行政系合わせて75%以上を達成した。【A】
- ・夏休は全員が完全取得した。昨年度に続きMy定時退庁日を設定させ、新たにプレ金定退日の呼びかけ等で勤務時間削減の意識が高まり、ほぼ全員が前年度より勤務時間を短縮したが、ごく一部で勤務時間外80時間超のものが残った。管理職の勤務時間は未だ目標値を超えた状態が続いた。より具体的な方策でより一層の働き方改革を推進する。【B】

次年度以降の課題	対 応 策
<p>『学校経営計画 中期的目標と方策』の継続・推進とともに、新たな教育施策に対応する。</p> <p>【学習指導】</p> <p>(1) わかる授業を目指し、基礎的・基本的な学力の定着を図る。</p> <p>(2) 教科マネジメントを確立し、組織的に生徒の学力向上を図る。</p> <p>(3) 客観的資料に基づく教育課程の検証を行う。</p> <p>(4) 社会人基礎力の育成に向けてワークブレース・ラーニングを教科横断的に実施する。また教科を超えて、STEAM教育を発展させる。</p> <p>【生活指導・保健指導】</p> <p>(1) 生徒の日常に目を向け、生徒と向き合い、自律的な生活態度の育成を図る。</p> <p>(2) 生徒の健康づくり、安全管理、環境美化を徹底する。</p> <p>(3) 防災教育・安全教育、特に自転車による事故防止を充実させるとともに、生徒に自己の役割を認識させ、社会に貢献する意識の涵養を図る。</p> <p>【進路指導】</p> <p>(1) 最後まであきらめさせない進路指導を貫き、グローバル人材の育成も図る。</p> <p>(2) 進路指導をより一層充実・発展させる。</p> <p>(3) キャリア教育を充実させ、生涯にわたる在り方・生き方について考えさせる。</p> <p>(4) 技能スタンダードの目標達成とともに生徒の自己肯定感を高めるためにも、資格取得や検定受験を意図的・計画的に進め、合格率を高める指導に取り組む。</p> <p>(5) 海外学校間交流推進校として、海外スタディーツアーやネットワーク利用の交流等を通じて、生徒のグローバル感覚を醸成する。</p> <p>【特別活動】</p> <p>(1) 部活動の一層の活性化を図る。</p> <p>(2) 体育祭や文化祭などの学校行事の一層の充実を図る。</p> <p>(3) 生徒会活動・委員会活動の活性化を図り、生徒が主体的に活躍する場を拡大する。</p> <p>(4) 東京都子供読書活動推進計画を踏まえた本校の読書活動を推進する。</p> <p>(5) オリンピック・パラリンピック教育に継続的に取り組む。</p> <p>【募集・広報活動】</p> <p>(1) 募集・広報活動の工夫・改善による「推薦に基づく選抜及び学力検査による選抜」の応募倍率向上を図る。</p> <p>(2) 学校説明会・学校見学会の工夫・分析調査、教員による企業訪問の推進、学校ホームページの充実、中学校・塾訪問や授業・部活動の体験を実施、合同</p>	<p>31年度に展開や実施、新規立ち上げをした各取組を継続しながら、発展的新規事業に取組む。教職員全員が取組む体制・姿勢で臨む。</p> <p>【学習指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上推進委員会と教科会を中心として、全教科で「わかる授業」、アクティブ・ラーニングによる「対話的・主体的で深い学び」を徹底し、生徒のやる気を引き出す。 ・教員相互の授業参観について、時期の設定等より実効性のある形で確実な実施を徹底し、各教員の授業力向上を図る。 ・学力スタンダードや技能スタンダードを踏まえて、授業評価・到達度評価など適切な評価を組織的・計画的に実施し、加えて今後の教育課程の在り方や新学習指導要領、新しい大学入試制度等について議論を深め、系列の改変を含めたIT人材育成のためのプログラムの検討を進める。 ・教科会の定期開催と科会議事録作成・報告を徹底し、教科マネジメントの更なる推進を図る。 <p>【生活指導・保健指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活指導統一基準「身に付けさせる規律・規範」に全校的取組を適切に設定・周知し、継続する。教職員は統一基準の共通認識に基づき、全教職員が授業・全校集会・ホームルーム・部活動等の機会に生徒の自覚を高める指導を継続し、身だしなみを整え、時間管理（遅刻0、提出物期限遅れ0）ができる生徒へと育成する。 ・スクールカウンセラーを有効活用するため、生徒・保護者に利用方法を周知するとともに、生徒指導部、特別支援教育委員会と連携して生徒個々に有効な指導方法で対応する。 ・関係機関との連携により、上級救急救命講習、総合防災訓練、セーフティ教室、交通安全教室などを実施し指導・育成する。 <p>【進路指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒情報を共有する方策を更に推し進め、担任・副担任・教科担任・部活動顧問等があらゆる場面で生徒を励ます指導を行う。 ・進路指導部主導で3年間を見通した計画に基づき、進路講話、進路ガイダンス等をさらに充実させ、社会人としての勤労観・職業観・規範意識を育む。また、学年との連携のもと、生徒の理解を深めさせてインターンシップを実施する。 ・町工グローバルITエンジニア育成プログラムを着実に実施・継承・発展させるとともに、その成果を進路実績へとつなげる。 ・姉妹校提携を含め、生徒にグローバルな視点を身に付けさせる事業を継続・発展させ、実施する。 <p>【特別活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新入生への部活動参加を更に奨励するとともに、2年次生への部活動継続を促し、活性化を図る。各部活動に、地域貢献への取組を更に奨励する。 ・生徒会・各種委員会の積極的活動を促し、生徒の主体性を生かす文化祭、体育祭を継続的に実施し、生徒の自主・自立の精神を育成する。 ・オリンピック・パラリンピック教育の更なる充実（「学校2020レガシー」の構築に向けた取組）と主権者教育の確実な定着を図る。 ・読書会、教科による読書活動を継続・推進する。 <p>【募集・広報活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合情報科の特色を生かした各系列のものづくり教室や1日体験入学をさらに充実させ、工業・情報教育に関心のある応募者を増やす。その様子をホームページ等情報メディアを活用して発信する。 ・本校が行う施策についてあらゆるメディアを活用して広く広報し、IT関連を学ぶ意志のある都内全域の中学生・保護者に本校を知ってもらう。 ・近隣中学校の技術教員への講習会等を継続し、それを通して本校の良さを中

<p>学校説明会参加など募集・広報活動を行う。</p> <p>【学校経営・組織体制】</p> <p>(1) 高い倫理意識を持った教職員集団と法規法令の遵守。(生徒・保護者の信頼の確立)</p> <p>(2) 「経営企画室と一体」となった体制づくりを進める。</p> <p>(3) 企画調整会議、主幹会議、分掌部会の充実を図る。</p> <p>(4) 教科会の充実を図る。</p>	<p>学校へ伝えてもらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校訪問を広く丁寧を実施し、これまでに訪問等のない塾などにも新規で広報活動する。またその中で、本校へのニーズをつかみ、進路指導や募集対策に生かす。 ・IT企業などとの連携で本校の存在価値を高め、募集対策の一助とする。さらに、本校の特色を生かせる大学の指定校等の新規開拓を図る。 ・本校の良さをよりアピールするためのホームページのリニューアルに取り組むとともに、教職員全身体制によるホームページ更新を更に徹底し、最新情報を常にアップする。動画サイト「まなびゅー」を活用し、アピールする。 <p>【学校経営・組織体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・迅速な情報共有を推進し、常に組織、チーム学校としての対応を心がける。 ・学校経営計画に基づいた分掌の目標設定、中間総括、年度末総括など、組織的な対応でマネジメントサイクルに基づく活動を周知・徹底する。 ・生徒が安全・快適に学校生活を過ごせるよう、物品・施設・設備の充実・保全に努めるとともに、不要なものについて、廃棄を徹底する。 ・服務事故防止研修を始め、いじめや体罰根絶に向けた取組を確実にを行い、服務事故0、いじめ・体罰0を実現する。
--	--